

令和2年度（R2 シカ年度\*）  
知床半島エゾシカ管理計画  
実行計画（案）



令和2年（2020）年7月

\* 「シカ年度」の定義については p.1 の②参照

## 目 次

1. 知床半島エゾシカ管理計画実行計画について.....	p.1
2. R2 シカ年度実行計画（管理事業）一覧.....	p.5
3. R2 シカ年度実行計画（モニタリング調査）一覧.....	p.7
4. 計画の実行に関する検討スケジュール.....	p.8
5. 遺産地域内における個体数調整の中長期目標.....	p.9
<付録> 補足資料.....	p.10
1) 植生指標検討のための調査一覧（2020年度）	
2) 知床半島 エゾシカ採食圧に関する森林固定調査区の一覧 今後のモニタリング計画	
別表1 第3期知床半島エゾシカ管理計画 計画期間中のスケジュール	

# 1. 知床半島エゾシカ管理計画実行計画について

## ① 目的

今年度は、「第3期 知床半島エゾシカ管理計画」の計画期間【2017（平成29年）4月～2022（令和4）年3月】の4年目にあたる。同計画期間についても、第1期および第2期計画に引き続き、各シカ年度毎に「知床半島エゾシカ管理計画実行計画」を作成し、エゾシカ管理施策を実施するものとする。本実行計画は、2020（令和2年）年6月～2021（令和3）年5月を計画期間とする。

また、「知床半島エゾシカ管理計画」は、北海道が定める「北海道エゾシカ管理計画」（第二種特定鳥獣管理計画）の地域計画に位置づけられていることから、本実行計画に基づく各種事業の実施にあたっては、「北海道エゾシカ管理計画（第5期）」と十分な連携を図りながら進めるものとする。

## ② 2020（R2）シカ年度実行計画期間

エゾシカ管理上の年度区切りとしては、出産期の6月開始、翌年5月終了とする。

年度の表記としては、「R2シカ年度」とする。

## ② 2020（R2）シカ年度実行計画概要

<管理事業>（5ページ参照）

「第3期知床半島エゾシカ管理計画」の中で定めた3つの管理手法（防御的手法、生息環境改変、個体数調整）を、各地区の管理方針に基づいて優先順位の高いものから順に実施することとする。

### i) 「防御的手法」

知床岬などに設置されている各種植生保護柵による防御を継続するとともに、幌別一岩尾別地区では植生保護柵や単木保護ネットの補修を実施し、シカ樹皮食い防止対策を引き続き進める。ウトロ市街地や羅臼中心市街地では、市街地を取り囲む侵入防止柵や電気柵の維持管理および被害対策を継続する。

### ii) 「生息環境改変」

幌別一岩尾別地区において、100平方メートル運動の森・トラストによる、開拓跡地の森林復元作業を引き続き進める。公共事業等における法面植栽等については、エゾシカの嗜好性の低い在来種の利用を推進する。

### iii) 「個体数調整」

R2（2020）シカ年度については、引き続き知床岬地区、ルサー相泊地区及び幌別一岩尾別地区において個体数調整を実施する。なお、捕獲手法については、それぞれの対策地における対策フェーズに応じて、効率的かつ低コストな対策手法を試行するなどの検討を進める。法改正により限定的に実施が認められている、夜間銃猟（日没時銃猟）や捕獲個体の放置についても、

活用の検討を進める。さらに隣接地域においても囲いわなや銃等による個体数調整を実施する他、狩猟による捕獲を推進する。なお、実施にあたっては、希少鳥類への影響に配慮する。

<モニタリング調査> (4 ページ参照)

「知床半島エゾシカ管理計画」の中で定めた2つの評価項目（植生、エゾシカ生息密度）を中心に、必要なデータを収集することを目的とする。

i) 「植生」

既存の植生保護柵内外の回復過程調査を規模を縮小して実施するほか、個体数調整実施地区における固定調査区のモニタリング、簡易的手法による指標種の回復量調査、広域的なシカ採食圧評価のための混合ベルト調査等を実施する。

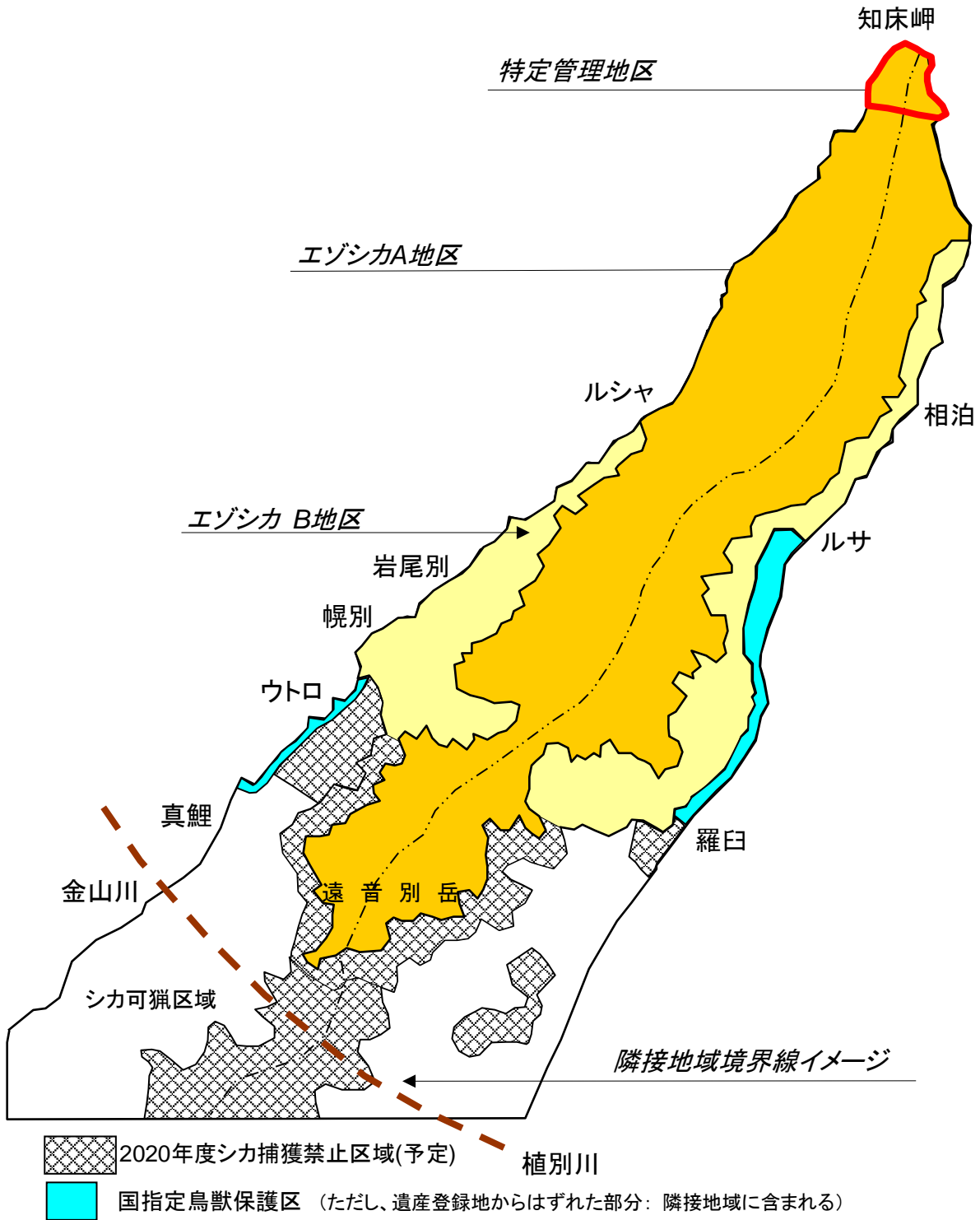
ii) 「エゾシカ生息密度」

主要越冬地での生息動向を、航空カウント調査を中心に、ロードセンサス（ライトセンサスや日中センサス）などの手法も用いて引き続き把握することに加え、自然死亡状況についても情報収集する。

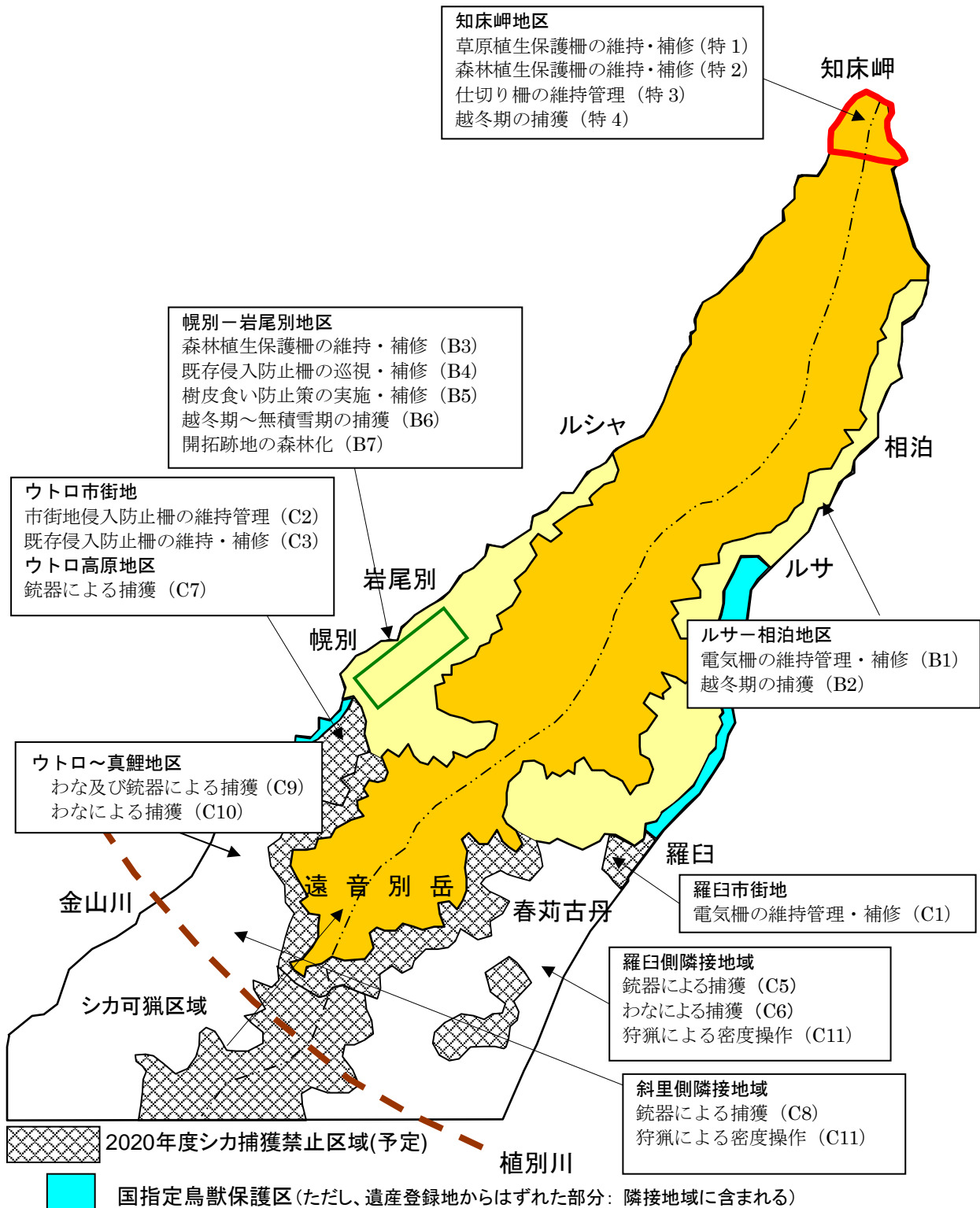
iii) 「土壌浸食」

林野庁では広域採食圧調査の実施時にA0層と表土の流失の程度を5段階で把握する。

# 知床半島エゾシカ管理計画・地区区分図



# 2020(R2)シカ年度管理事業位置図



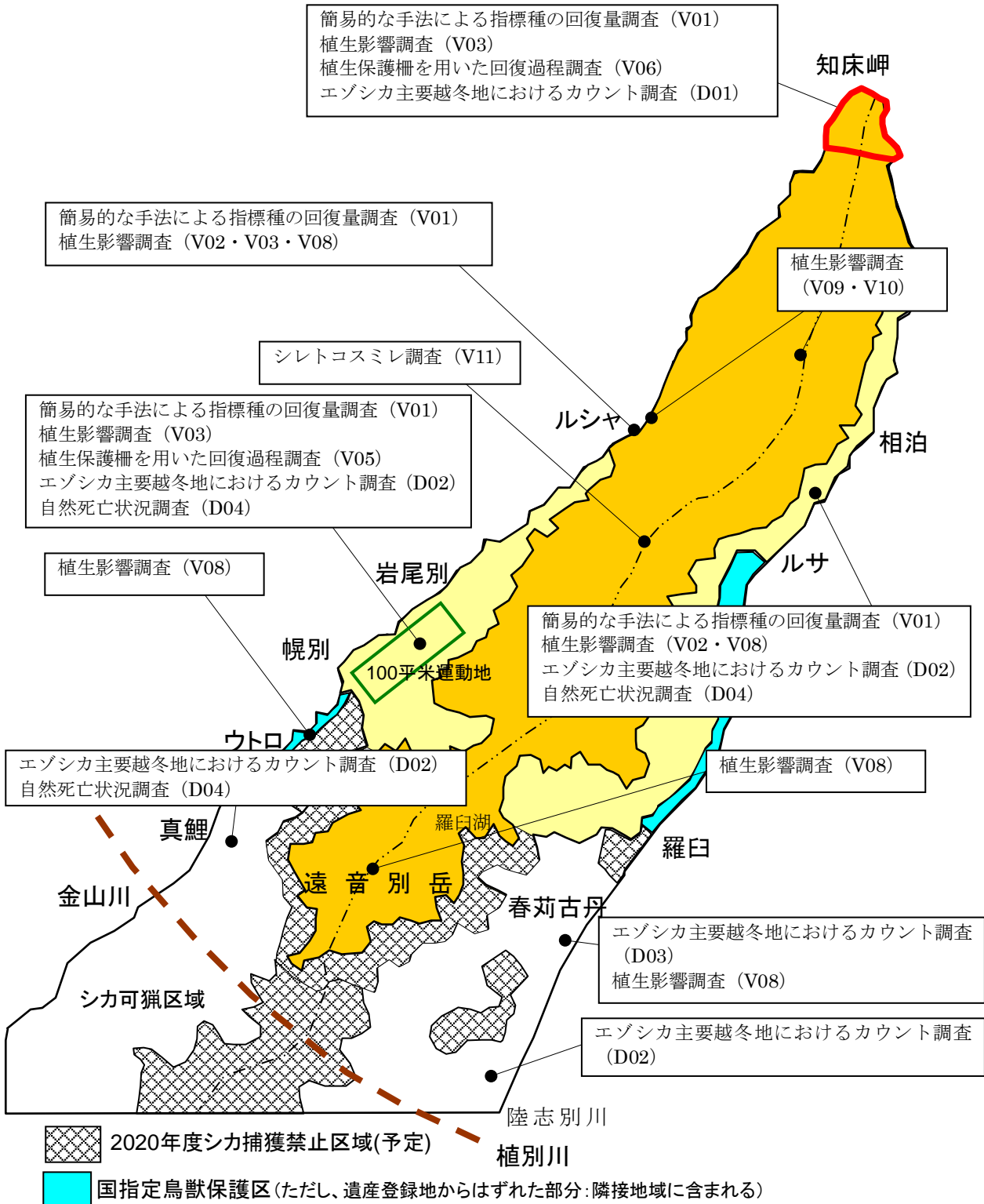
2. 2020 (R2) シカ年度実行計画 (管理事業) 一覧

地区区分	管理目標	地区	管理手法	No.	管理事業	実施主体	実施時期	実施内容 (2020、2021年度は計画)					備考		
								2017	2018	2019	2020	2021			
								H29	H30	R01	R02	R03			
特定管理地区	・エゾシカの採食圧を軽減することにより、生物多様性を保全・再生するとともに土壌浸食を防止。風衝地群落の植被率を回復。 ・エゾシカの密度5～10頭/km <sup>2</sup> 以下。	知床岬	防御的手法	特1	草原植生保護柵の維持・補修	環境省	通年	○	○	○	○	○	エオルシ岬仕切り柵、アブラコ湾保護柵15m×15m、羅臼側高茎草本群落保護柵20m×20m		
				特2	森林植生保護柵の維持・補修	林野庁	通年	○	○	○	○	○	100m×100m保護柵		
			個体数調整 低密度状態を維持する手法の開発・検討	特3	仕切り柵の維持管理	環境省	夏～秋	○	○	○	○	○			
				特4	越冬期の捕獲	環境省	2-5月	○	○	○	○	○	銃器・くくりわな		
			モニタリング		シカ・植生	環境省・林野庁		○	○	○	○	○	※別表		
A地区 エゾシカ	動的な生態系を保全し、生物多様性を保全する。	高山帯	防御的手法	A1								※未実施			
			モニタリング			環境省		○	○	○	○	○	※別表		
		ルシャ	防御的手法	A2									※未実施		
			モニタリング			環境省・林野庁		○	○	○	○	○	○	※別表	
エゾシカB地区	・エゾシカの採食圧を軽減することにより、生物多様性を保全する。 ・離農跡地での森林復元を促進。 ・エゾシカの密度5頭/km <sup>2</sup> 以下。	ルサー相泊	防御的手法	B1	電気柵の維持管理・補修	羅臼町・知床財団	春～秋	○	○	○	○	○			
			個体数調整	B2	越冬期の捕獲	環境省	12-4月	○	○	○	○	○	○	銃器・くくりわな・小型箱わな	
			モニタリング			環境省・林野庁		○	○	○	○	○	○	※別表	
		幌別-岩尾別	防御的手法	B3	森林植生保護柵の維持・補修	林野庁	通年	○	○	○	○	○	○	幌別80m×120m、岩尾別50m×200m	
				B4	既存侵入防止柵の巡視・補修	斜里町	通年	○	○	○	○	○	○	百m運動地内	
				B5	樹皮食い防止策の実施・補修	斜里町	春～秋	○	○	○	○	○	○	百m運動地内、単木保護800本	
			個体数調整 有効な捕獲手法について検討	B6	越冬期～無積雪期の捕獲	環境省	12-6月	○	○	○	○	○	○	銃器・大型囲い柵・小型箱わな・くくりわな	
		生息環境の改変	B7	開拓跡地の森林化	斜里町	春～秋	○	○	○	○	○	○	百m運動地内		
		モニタリング			環境省・林野庁・斜里		○	○	○	○	○	○	※別表		
		国立公園内	生息環境の改変	B8	道路法面牧草面積の拡大抑制	環境省		○	(事業なし)	○	○	○	○		
		隣接地域	・エゾシカの採食圧を軽減することにより、生物多様性を保全する。 ・地域住民とエゾシカの軋轢緩和を図る。	羅臼市街地	防御的手法	C1	電気柵の維持管理・補修	羅臼町・知床財団	春～秋	○	○	○	○	○	
ウトロ市街地	C2			市街地侵入防止柵の維持管理		斜里町	通年	○	○	○	○	○	○	市街地を囲む4.1km	
	C3			既存侵入防止柵の維持・補修		林野庁	通年	○	○	○	○	○	○	イチイ林木遺伝資源保存林	
春川古丹	個体数調整 コミュニティベースの個体数調整を、必要に応じて支援			C4	わなによる捕獲	林野庁		○	○	○	○	○	○	囲いわな・小型箱わな	
羅臼町内				C5	銃器による捕獲	羅臼町		○	○	○	○	○	○		
羅臼町内				C6	わなによる捕獲	羅臼町		○	○	○	○	○	○	くくりわな	
ウトロ高原				C7	銃器による捕獲	斜里町		○	○	○	○	○	○		
斜里町内				C8	銃器による捕獲	斜里町		○	○	○	○	○	○		
ウトロ～真鯉				C9	わな及び銃器による捕獲	林野庁		○	○	○	○	○	○	○	囲いわな・小型箱わな・くくりわな
				C10	わなによる捕獲	斜里町		○	○	○	○	○	○	○	小型箱わな
全域	C11			狩猟による密度操作	北海道		○	○	○	○	○	○	○		
全域	モニタリング			環境省・林野庁		○	○	○	○	○	○	※別表			

※水色は予定通り実施、オレンジ色は数量・実施年に変更あり

# 2020(R2)シカ年度モニタリング調査位置図

※エゾシカ越冬群の広域航空カウント調査 (D05) は全域





3. 2020 (R2) シカ年度実行計画 (モニタリング事業) 一覧

評価項目	実施主体	モニタリング項目	No.	実施内容 (2020、2021年度は計画)										
				植生タイプ または 調査方法	調査地	実施 時期	2017	2018	2019	2020	2021	基本方針等		
							H29	H30	R01	R02	R03			
植生	詳細調査 (調整地区+ルシヤ)	環境省	V01	草原・森林	知床岬	8月	○	○	○	○	○	毎年 (ルシヤは他の調査機会に合わせて実施)		
				草原	ルサ-相泊		○	○	○	○				
				草原・森林	幌別-岩尾別		○	○	○	○				
				草原・森林	ルシヤ		○			○				
		林野庁	V02	森林	知床岬	8-9月	○		△林床		△林床	林床・稚樹・下枝は隔年、毎木は6年間隔		
					ルサ-相泊		○	○		△林床				
					幌別-岩尾別		○		△林床		△林床			
	環境省	V03	草原	知床岬	8月		○		○		知床岬は隔年、幌別は5年程度			
				幌別					○					
	林野庁	V04	森林	知床岬	8-9月	○		△林床		△林床	林床・稚樹・下枝は隔年、毎木は6年間隔			
				幌別		○		△林床		△林床				
ルシヤ						○△		△林床						
斜里町	V05	森林	幌別-岩尾別	8月	○	○	○	○	○	100平米運動地各種侵入防止柵内外				
			ルシヤ											
環境省	V06	草原	知床岬	8月		○		○		隔年程度				
環境省	V07	草原	知床岬	8月 10月	(終了)					イネ科草本の回復が見られるまで毎年				
			ルサ-相泊		ルサ	(終了)								
			幌別-岩尾別		○	○	○	(終了)						
広域調査	林野庁	V08	森林	全域 (数字はV02含む)	8-9月	林9区 環4区	林19区 環2区	林9区 環0区	林21区 環1区	林22区 環3区	5年間隔			
	環境省	V09	海岸	羅臼側	8月					○	5年間隔程度			
				斜里側 V03含む					○					
	環境省	V10	高山	全域	8月	遠音別岳 2区	連山 5区	羅臼湖 5区	知床岳 2区		5年間隔程度			
環境省	V11	高山	硫黄山	7-9月	○	○	○	○	○	当面は毎年モニタリング				
エゾシカ 個体数・ 個体数 指数	詳細調査	エゾシカ主要越冬地におけるカウント調査 (シカ生息動向調査)	D01	航空カウント	知床岬	2-3月	○	○	○	○	○	巡回撮影		
			D02	ライトセンサス・日中センサス	ルサ-相泊	春、秋	○	○	○	○	○	調査距離10.2km		
					幌別-岩尾別	春、秋	○	○	○	○	○	調査距離9.3km		
					ウトロ~真鯉	12-4月	○	○	○	○	○	日中、調査距離約12km		
					羅臼町峯浜	10月	○	○	○	○	○	調査距離約10km		
			D03	カメラトラップ調査	真鯉、春刈古丹	6-7月、9-10月	○	○	○	○	○	3~4キロの範囲内に6台		
			D04	死亡個体計測	知床岬	(自然死亡の把握困難のため当面未実施)								
	ルサ-相泊	冬~春			○	○	○	○	○					
	幌別-岩尾別	冬~春			○	○	○	○	○					
	ルサ~峯浜	冬~春			○	○	○	○	○					
	ウトロ~真鯉	冬~春			○	○	○	○	○					
広域調査	環境省	D05	航空カウント	全域	2-3月	遺産地域内	遺産地域内	遺産地域内	全域	遺産地域内	ヘリからの越冬個体数把握			
	環境省	D06	追い出しカウント											
	環境省	D07	電波発信器調査		通年	ルシヤ								
土壌 浸食	詳細	環境省	E01	(草原)	知床岬	8月	○					5年間隔程度		
	広域	環境省 林野庁	E02	森林	全域	8-9月	V07に併せて実施					5年間隔程度		
生態系 への 影響	詳細調査	環境省	B01	草原・森林	知床岬	8月			訪花					
					ルサ-相泊				訪花・地表性					
					幌別-岩尾別				訪花・地表性					
					半島基部				訪花・地表性					
環境省	B02	草原・森林	知床岬	7月 8月			○							
			幌別-岩尾別				○							

※水色は予定通り実施、オレンジ色は数量・実施年に変更あり

## 4. 計画の実行スケジュール

2020 (R2) シカ年度

	第3期 知床半島エゾシカ管理計画	北海道エゾシカ管理計画 (第5期)
4月		
5月		・2020 (R2) エゾシカ可猟区域に関する意見照会
6月	各種調査結果 (事業結果) とりまとめ 実行計画案について、地元自治体等の関係行政機関と調整	・エゾシカ対策有識者会議生息状況評価部会【2019 (R1) 生息動向評価等】
7月	第1回エゾシカ・ヒグマWG会議 ・2019 (R1) シカ年度結果 ・2020 (R2) シカ年度実行計画 (案) の検討 ※日没時銃猟・捕獲個体の残置に係る計画含む ・長期モニタリング計画の評価シート  実行計画期間開始	・エゾシカ対策有識者会議【2019 (R1) 捕獲数 (速報)、個体数指数の決定、R2 可猟区域案の検討等】 ・北海道環境審議会 (可猟区域道案諮問)
8月	第1回科学委員会 植生調査・モニタリング	・可猟区域の決定、告示
9月		
10月	(第1回地域連絡会議)	・エゾシカ猟解禁 (予定) ・ライトセンサス実施 (予定)
11月	(第2回エゾシカ・ヒグマWG会議)	
12月	積雪期個体数調整開始	・ライトセンサス結果とりまとめ ・2019 (R1) 捕獲数 (確定値) 発表
1月		
2月	第2回科学委員会 航空カウント調査	
3月	(第2回地域連絡会議)	
4月	春期個体数調整開始	
5月	個体数調整終了 2020 (R2) シカ年度実行計画期間終了	

## 5. 遺産地域内における個体数調整の中長期目標

■ は実績値、□ は目標値

	知床半島エゾシカ保護管理計画 計画期間		第1期(シカ年度表記)		第2期(シカ年度表記)					第3期(シカ年度表記)			備考	
	実行計画		2010(H22)	2011(H23)	2012(H24)	2013(H25)	2014(H26)	2015(H27)	2016(H28)	2017(H29)	2018(H30)	2019(R1)		2020(R2)
A 知床岬	I. 航空カウント調査 (モニタリングユニット M00)	上段: 発見頭数(与実数?) 下段: 発見密度(頭/km2) (上段値÷3.2km2) ※(2018年以降は3.23km2で計算)	246 76.9	265 82.8	第1段階目標: 5頭/km2以下 35頭/7km2(16頭/3.2km2)以下					第3期目標: 16~32頭/3.2km2 ※(2018年以降は3.23km2で計算) 以下			2~3月(捕獲実施前)に実施 対象範囲=モニタリングユニット M00: 約3.23km2 旧第1段階目標: 1980年代レベル (知床岬先端部のみの航空カウントで5頭/km2以下) 第3期目標: 5~10頭/km2以下	
		目標	—	—	75 23.4	87 27.2	139 43.4	57 17.8	88 27.5	40 12.5	74 22.91	52頭 16.10頭/km <sup>2</sup>		
	II. 捕獲頭数 (M00)	目標	—	—	45	30	110	34	51	20	20	44頭	20頭	自然増加率0.2とする。翌年の捕獲前生息数35頭以下となる数(〜2016)。同16~32頭以下となる数(2017〜)
	実績 (うちメス成獣)	57 (20)	216 (133)	32 (4)	9 (2)	88 (43)	10 (2)	37 (9)	8 (2)	11 (3)	3頭 (0頭)			
III. 捕獲後推定値	上段: 推定生息頭数 下段: 推定生息密度(頭/km2)	189 59.1	49 15.3	43 13.4	78 24.4	51 15.9	47 14.7	51 15.9	32 10.0	63 19.7	49頭 15.31頭/km <sup>2</sup>			
捕獲手法・検討事項		○ヘリによる厳冬期捕獲	○仕切柵設置 ○仕切柵を活用した捕獲 ヘリ1回、船2回	○仕切柵を活用した捕獲 ヘリ1回、船1回	○仕切柵を活用した捕獲 船2回	○仕切柵を活用した捕獲 ヘリ1回、船4回 (うち2回は無雪期の宿泊捕獲)	○仕切柵を活用した捕獲 ヘリ1回、船2回(無雪期の宿泊捕獲)	○仕切柵を活用した捕獲 ヘリ1回、船2回(うち1回は無雪期の宿泊捕獲)	○仕切柵を活用した捕獲 ヘリ1回、船2回(無雪期の宿泊捕獲)	○くくりわなと狙撃 ヘリ1回(厳冬期) ○待機狙撃 船3回(無雪期の宿泊捕獲)	○くくりわなと囲いわな ヘリ1回(厳冬期) ○待機狙撃 船1回(無雪期の日帰り捕獲)	○くくりわなと囲いわな ヘリ1回(厳冬期) ○待機狙撃 船4回(無雪期の日帰り捕獲)	2007(H19)シカ年度〜個体数調整開始 2011(H23)シカ年度 仕切柵設置 広義の知床岬地区(U-01+11)でのヘリセン発見密度5頭/km2以下が旧第2段階目標	
B ルサー相泊	知床半島エゾシカ保護管理計画→管理計画 計画期間		第1期(シカ年度表記)		第2期(シカ年度表記)					第3期(シカ年度表記)			備考	
	実行計画		2010(H22)	2011(H23)	2012(H24)	2013(H25)	2014(H26)	2015(H27)	2016(H28)	2017(H29)	2018(H30)	2019(R1)		2020(R2)
	I. 航空カウント調査 (モニタリングユニット R13)	上段: 生息頭数(指数) 下段: ヘリ発見密度(指数) (頭/km2)	156 8.72	—	第1段階目標: 89以下(R13-U13s) 5以下			第1段階目標(高標高含む): 123以下(R13) 5以下		第3期目標: 123頭以下(R13) 5頭/km2以下			面積(モニタリングユニット R13)=24.68km <sup>2</sup> R13-U13s(6.81km <sup>2</sup> )= 17.87km <sup>2</sup> 旧第1段階目標: 5頭/km2(ヘリ発見密度)	
		秋 個体数指数(頭/km)	12.1	11.4	181 10.13	105 5.88	61 3.41	141 5.71*	70 2.84*	48 1.9*	76 3.1	128頭 5.19頭/km <sup>2</sup>		
	II. ライトセンサス	秋 個体数指数(頭/km)	12.1	11.4	4.0	2.3	2.9	0.8	災害中止	1.4	2.0	1.7頭/km	調査距離 10.2km ショウジ川〜アイダマリ川	
		春 個体数指数(頭/km)	19.4	9.5	13.2	6.2	5.5	5.4	災害→距離短縮	7.1	6.2	5.4頭/km	調査距離 10.2km ショウジ川〜アイダマリ川	
III. 標識再捕獲法によるメス成獣推定個体数(捕獲後春)		327.7±94.2	184.0±46.5	—	—	—	—	—	—	—	—			
IV. 捕獲頭数	目標	—	—	300	220	215	210	20+α	80	75	70頭	55頭		
	実績 (うちメス成獣)	125 (49)	188 (84)	78 (42)	208 (125)	88 (49)	79 (41)	13 (6)	78 (34)	80 (32)	42頭 (17頭)			
捕獲手法・検討事項		○囲いワナ1基 ○定点SS	○囲いワナ2基 ○巻狩り ○流し猟式SS	○囲いワナ1基 ○流し猟式SS	○囲いワナ2基 ○流し猟式SS	○囲いワナ1基 ○流し猟式SS	○囲いワナ2基 ○流し猟式SS	○囲いワナ1基 ○くくりワナ (R12で 船捕獲)	○囲いワナ1基 ○くくりワナ・箱ワナ	○くくりワナ ○待伏誘引狙撃 ○流し猟式SS	○くくりワナ ○待伏誘引狙撃 ○流し猟式SS	2009(H21)シカ年度〜個体数調整開始		
C 幌別〜岩尾別	知床半島エゾシカ保護管理計画 計画期間		第1期(シカ年度表記)		第2期(シカ年度表記)					第3期(シカ年度表記)			備考	
	実行計画		2010(H22)	2011(H23)	2012(H24)	2013(H25)	2014(H26)	2015(H27)	2016(H28)	2017(H29)	2018(H30)	2019(R1)		2020(R2)
	I. 航空カウント調査 (モニタリングユニット S04)	上段: 生息頭数(指数) 下段: ヘリ発見密度(指数) (頭/km2)	1257 43.2	—	第1段階目標: 360以下 12.4以下			第2段階目標: 145以下 5以下		第3期目標: 145頭以下(S04) 5頭/km2以下			面積(モニタリングユニット S04)=29.08km <sup>2</sup> 旧第1段階目標: 2003年水準ヘリカウント値 旧第2段階目標: 5頭/km2(ヘリ発見密度)	
		秋 個体数指数(頭/km)	8.5	7.8	306 10.5	289 9.9	184 6.3	176 6.1	134 4.6	56 1.9	130 4.5	49頭 1.69頭/km <sup>2</sup>		
	II. ライトセンサス	秋 個体数指数(頭/km)	8.5	7.8	3.6	2.7	2.3	2.9	1.6	1.9	2.1	1.4頭/km	調査距離 岩尾別: 4.5km 幌別: 4.9km 合計9.4km	
		春 個体数指数(頭/km)	11.8	4.5	6.6	9.7	3.9	9.1	5.1	5.2	5.1	5.1頭/km	調査距離 岩尾別: 4.5km 幌別: 4.9km 合計9.4km	
III. 捕獲頭数	目標	—	—	1,060	400	165	130	100	85	125	100頭	60頭		
	実績 (うちメス成獣)	0	452 (247)	418 (251)	207 (110)	177 (94)	106 (49)	102 (44)	109 (53)	126 (55)	55頭 (26頭)			
捕獲手法・検討事項			○囲いワナ1基 ○くくりワナ ○流し猟式SS(冬)	○囲いわな1基 ○流し猟式SS (秋・冬・春)	○囲いワナ2基 ○流し猟式SS(冬) ○大型囲い柵	○囲いわな2基 ○流し猟式SS(1箇所) ○大型囲い柵 ○狙撃	○囲いわな1基 ○流し猟式SS(1箇所) ○大型囲い柵	○囲いわな1基 ○箱ワナ ○流し猟式SS(冬・春) ○大型囲い柵 ○誘引狙撃	○箱ワナ ○くくりワナ ○流し猟式SS(春) ○大型囲い柵 ○誘引狙撃	○箱ワナ ○くくりワナ ○流し猟式SS(春) ○大型囲い柵 ○誘引狙撃	○くくりワナ ○流し猟式SS(春) ○大型囲い柵 ○誘引狙撃	2011(H23)シカ年度〜個体数調整開始 2013(H25)シカ年度 岩尾別地区大規模囲い柵整備		





知床半島 エゾシカ採食圧に関する森林固定調査区の一覧 今後のモニタリング計画

調査区分の記号 ■: 1ha全調査、●: 帯状区全調査、▲: 帯状区林床・下枝・稚樹のみ、◆: 下枝など簡易、▼: 固定が不十分、下枝など未実施 ※赤字は固定最終年

■ 固定囲い区・対照区(1ha区)

		調査区数																
		H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	H33		
囲い区		7	2	2	5	-	7	-	4	-	4	-	4	-	4	-	4	森林管理局

番号	エリアNo	エリア	調査区分	別表1No	区分	設置年	実施者	面積	第1期保護管理計画			第2期保護管理計画			第3期管理計画			方針					
									07	08	09	10	11	12	13	14	15		16	17	18	19	20
1	M00	岬	E Mc	4	囲	2004	林	10,000	■			■		●		▲		■		△		△	大規模柵の効果を見るために2年間隔とする。
2	M00	岬	E Mo	4	囲	2004	林	10,000	■			■		●		▲		■		△		△	大規模柵の効果を見るために2年間隔とする。
3	S04	幌別岩尾別	E Hc	4	囲	2003	林	9,600	◆		■		■	●		▲		■		△		△	これまでの調査間隔を維持
4	S04	幌別岩尾別	E Ho	4	囲	2003	林	10,000	◆		■		■	●		▲		■		△		△	これまでの調査間隔を維持
5	S04	幌別岩尾別	E Ic	4	囲	2009	林	10,000			■		■										影響を見るには適さないため、5年間隔程度とする。
6	S04	幌別岩尾別	E lo1	4	囲	2009	林	2,500			■		■										影響を見るには適さないため、5年間隔程度とする。
7	S04	幌別岩尾別	E lo2	4	囲	2009	林	2,500			■		■										影響を見るには適さないため、5年間隔程度とする。

■ 採食圧調査帯状区(100m)

		調査区数																
		H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	H33		
全体		61	15	8	2	-	32	18	20	8	14	21	9	19	11	17	19	森林管理局
環境省		9	2	1	-	-	4	5	4	-	3	2	4	2	3	-	2	
岬		10	-	2	-	-	4	2	6	-	6	-	6	-	6	-	6	
ルサ		6	2	-	-	-	4	2	5	-	5	-	-	5	-	5	-	
幌別		6	-	-	-	-	3	3	6	-	6	-	6	-	6	-	6	
ルシヤ		6	-	4	-	-	2	-	4	-	-	2	-	6	-	6	-	
羅臼側		15	6	1	2	-	9	6	1	4	-	8	-	2	2	2	6	
斜里側		12	4	2	-	-	6	4	2	4	-	8	-	6	-	4	4	
高標高		15	5	1	-	-	8	6	1	-	5	1	2	-	-	5	5	

番号	エリアNo	エリア	調査区分	別表1No	区分	設置年	実施者	面積	第1期保護管理計画			第2期保護管理計画			第3期管理計画			方針					
									07	08	09	10	11	12	13	14	15		16	17	18	19	20
8	M00	岬	M00-1	2	低	2011	林	400				●		▲		●		△		△	大規模柵の効果を見るために2年間隔とする。		
9	M00	岬	M00-2	2	低	2011	林	400				●		▲		●		△		△	大規模柵の効果を見るために2年間隔とする。		
10	M00	岬	M00-3	2	低	2011	林	400				●		▲		●		△		△	大規模柵の効果を見るために2年間隔とする。		
11	M00	岬	M00-4	2	低	2011	林	400				●		▲		●		△		△	大規模柵の効果を見るために2年間隔とする。		
12	M00	岬	M00-5	2	低	2008	林	400		▼				●		▲		●		△	大規模柵の効果を見るために2年間隔とする。		
13	M00	岬	M00-6	2	低	2008	林	400		▼				●		▲		●		△	大規模柵の効果を見るために2年間隔とする。		
14	R11	岬東側	R11-1	7	低	2009	林	400			▼			●				○			アプローチ困難なため5-10年間隔程度とする。		
15	R11	岬東側	R11-2	7	低	2009	林	400			▼			●				○			アプローチ困難なため5-10年間隔程度とする。		
16	R13-1	ウナキベツ	R12-1	7	低	2011	林	400					●					○			5年間隔で実施(仕様書2013年は記載ミス)		
17	R12	知床岳(羅臼)	R12-H1	7	高	2008	環	400		◆				●							5年間隔の予定		
18	R13-1	相泊ルサ	R12-2	2	低	2011	林	400					●		▲		▲		△		△	2年間隔、2015年は環境省業務	
19	R13-2	相泊ルサ	R13-1	2	低	2011	林	400					●		▲		▲		△		△	2年間隔、2015年は環境省業務	
21	R13-2	相泊ルサ	R13-3	2	低	2011	環林	400					●		▲		▲		△		△	2年間隔、2015年は環境省業務	
20	R13-3	相泊ルサ	R13-2	2	低	2011	林	400					●		▲		▲		△		△	2年間隔、2015年は環境省業務	
22	R13-3	相泊ルサ	R13-4	2	低	2006	林	400		▼				●		▲		▲		△		△	2年間隔、2015年は環境省業務
23	R13-3	相泊ルサ	R13-5	7	低	2006	林	400		◆				●		▲		▲		△		△	5年間隔で実施
24	R14	サシルイ川	R14-1	7	低	2011	林	400						●						○			5年間隔で実施
25	R14	サシルイ川	R14-2	7	低	2011	林	400						●						○			5年間隔で実施
26	R14	サシルイ川	R14-3	7	低	2011	林	400						●						○			5年間隔で実施
27	R16	羅臼	R16-1	7	低	2006	林	400		▼				●									5年間隔で実施
28	R16	羅臼	R16-2	7	低	2006	林	400		◆				●									5年間隔で実施
29	R16	羅臼	R16-H1	7	高	2011	林	400						●									5年間隔で実施
30	R16	羅臼	R16-H2	7	高	2011	林	400						●									5年間隔で実施
31	R16	羅臼	R16-H3	7	高	2007	環	400		◆				●						○			5年間隔で実施(R16-3を修正)
32	R17	知西別川	R17-1	7	低	2011	林	400						●						○			5年間隔で実施
33	R17	知西別川	R17-2	7	低	2011	林	400						●						○			5年間隔で実施
34	R20	春刈古丹	R20-1	7	低	2006	林	400		▼				●		▲		▲		○		△	個体数調整の効果を見るために2年間隔とする。
35	R20	春刈古丹	R20-2	7	低	2006	林	400		▼				●		▲		▲		○		△	個体数調整の効果を見るために2年間隔とする。
36	R20	通巻別川(羅臼)	R20-H1	7	高	2011	環	200						●						○			5年間隔の予定
37	R21	陸志別	R21-1	7	低	2011	林	400						●									5年間隔で実施
38	R21	陸志別	R21-2	7	低	2011	林	400						●									5年間隔で実施
39	R21	陸志別	R21-3	7	低	2011	林	400						●									5年間隔で実施
40	R21	陸志別	R21-4	7	低	2006	林	400		▼				●									5年間隔で実施
41	R21	陸志別	R21-5	7	低	2006	林	400		▼				●									5年間隔で実施

番号	エリアNo	エリア	調査区名	別表1No	区分	設置年	実施者	面積	第1期保護管理計画			第2期保護管理計画			第3期保護管理計画			方針		
									07	08	09	10	11	12	13	14	15		16	17
42	S01	岬西側	S01-1	7	低	2008	林	400		▼					●			○		5年間隔で実施
43	S01	岬西側	S01-2	7	低	2008	林	400		▼					●			○		5年間隔で実施
44	S02-2	ルシヤ	S02-1	7	低	2011	林	400							●		●	△	△	5年間隔だが、個体数調整の進捗に合わせて変更
45	S02-2	ルシヤ	S02-2	7	低	2011	林	400							●		●	△	△	5年間隔だが、個体数調整の進捗に合わせて変更
46	S02-2	ルシヤ	S02-3	7	低	2008	林	400		▼					●			○	△	5年間隔だが、個体数調整の進捗に合わせて変更
47	S02-2	ルシヤ	S02-4	7	低	2008	林	400		▼					●			○	△	5年間隔だが、個体数調整の進捗に合わせて変更
48	S02-3	ルシヤ	S02-5	7	低	2008	林	400		▼					●			○	△	5年間隔だが、個体数調整の進捗に合わせて変更
49	S02-3	ルシヤ	S02-6	7	低	2008	林	400		▼					●			○	△	5年間隔だが、個体数調整の進捗に合わせて変更
50	S04-1	五湖	S04-1	7	低	2011	林	400							●					5年間隔で実施
51	S04-1	五湖	S04-2	7	低	2011	林	400							●					5年間隔で実施
52	S04-1	連山田腹	S04-H1	7	高	2006	林	400	▼						●					5年間隔で実施
53	S04-1	連山中腹	S04-H2	7	高	2006	林	400	▼						●					5年間隔で実施
54	S04-1	連山田腹	S04-H3	7	高	2003	林	200							●					古い調査区のため改めて設定する。
55	S04-1	連山田腹	S04-H4	7	高	2007	環	400	◆						●			○		5年間隔の予定
56	S04-2	横別岩尾別	S06-1	2	低	2011	林	400							●			△		個体数調整の効果を見るために2年間隔とする。
59	S04-2	横別岩尾別	S06-4	2	低	2012	環	400							▲			▲	△	個体数調整の効果を見るために2年間隔とする。
57	S04-3	横別岩尾別	S06-2	2	低	2011	林	400							●			▲	△	個体数調整の効果を見るために2年間隔とする。
58	S04-3	横別岩尾別	S06-3	2	低	2011	林	400							●			▲	△	個体数調整の効果を見るために2年間隔とする。
60	S04-3	横別岩尾別	S06-5	2	低	2012	環	400							▲			▲	△	個体数調整の効果を見るために2年間隔とする。
61	S04-3	横別岩尾別	S06-6	2	低	2012	環	400							▲			▲	△	個体数調整の効果を見るために2年間隔とする。
62	S04-3	横断道	S06-H1	7	高	2011	林	400							●					5年間隔で実施
63	S04-3	横断道	S06-H2	7	高	2011	林	400							●					5年間隔で実施
64	S04-3	横断道	S06-H3	7	高	2006	林	400	▼						●					5年間隔で実施
65	S07	宇登呂	S07-1	7	低	2011	林	400							●			△	△	個体数調整の効果を見るために2年間隔とする。
66	S07	宇登呂	S07-2	7	低	2011	林	400							●			△	△	個体数調整の効果を見るために2年間隔とする。
67	S07	宇登呂	S07-3	7	低	2014	林	400							●			△	○	2013新設囲い区の中に設定。
68	S07	宇登呂	S07-4	7	低	2014	林	400							●			△	○	2013新設囲い区の外に設定。
69	S08	遠音別	S08-1	7	低	2006	林	400	▼						●					5年間隔で実施
70	S08	遠音別	S08-2	7	低	2006	林	400	◆						●					5年間隔で実施
71	S08	遠音別	S08-3	7	低	2006	林	400	▼						●					5年間隔で実施
72	S08	遠音別	S08-4	7	低	2006	林	400	◆						●					5年間隔で実施
73	S08	遠音別岳	S08-H1	7	高	2011	林	400							●					5年間隔で実施、2016年は環境省業務
74	S08	遠音別岳	S08-H2	7	高	2011	環	400							●					5年間隔の予定
75	S08	遠音別岳	S08-H3	7	高	2011	環	400							●					5年間隔の予定
76	S10	真鯉	S10-1	7	低	2011	林	400							●					5年間隔で実施
77	S10	真鯉	S10-2	7	低	2011	林	400							●					5年間隔で実施

※調査区名の 青塗りは、標高300m以上に設置された調査区(高標高地)。

※実施者の 水色塗りは、環境省の事業で実施された森林調査区。

※2年間隔の実施時は、稚樹・下枝・林床植生のみの調査とし、毎木調査は実施しない(▲)。

【別表1】 第3期知床半島エゾシカ管理計画 計画期間中のスケジュール

		第3期				
		2017 (H29) 年度	2018 (H30) 年度	2019 (R1) 年度	2020 (R2) 年度	2021 (R3) 年度
<b>特定管理地区 (知床岬)</b>		○個体数調整 仕切り柵を用いた銃猟による個体数調整を実施する。 ○モニタリング エゾシカ越冬数の把握及び植生調査を実施する。			○結果の評価 ○第4期に向けた管理方針の検討・取りまとめ	
<b>エゾシカ A地区</b>	<b>高山帯</b>	○モニタリング 高山帯の希少種(シレットコスミレ等)の採食状況等について調査を実施する。			○結果評価 ○第4期に向けた管理方針の検討・取りまとめ	
	<b>ルシヤ</b>	○モニタリング エゾシカ季節移動及び越冬数の把握、植生調査等を実施する。			○結果の評価 ○第4期に向けた管理方針の検討・取りまとめ	
<b>エゾシカ B地区</b>	<b>ルサー相泊</b>	○個体数調整 ルサー相泊地区においては、道路の維持管理状況と捕獲効率との関係に留意。船上からの捕獲等、新手法を検討し、実施する。				
	<b>幌別-岩尾別</b>	○モニタリング エゾシカ越冬数の把握及び植生調査を実施する。			○結果評価 ○第4期に向けた管理方針の検討・取りまとめ	
<b>隣接地域</b>		○個体数調整 コミュニティベースの個体数調整の活用等、持続可能な管理体制の構築のための方策を検討する。 ○モニタリング			○結果評価 ○第4期に向けた管理方針の検討・取りまとめ	
<b>計画の見直し</b>		管理計画の実施状況について評価しつつ、管理計画の基本方針について、見直し・検討を進める。			○第4期管理計画策定に向けた検討	○第4期管理計画策定
<b>ユネスコ/ IUCN現地調査 報告書の勧告 への対応</b>		○植生指標 モニタリングを実施するとともに、その評価に関する検討を進める。			○結果評価 ○植生の管理目標に関する検討	